

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 寿山 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

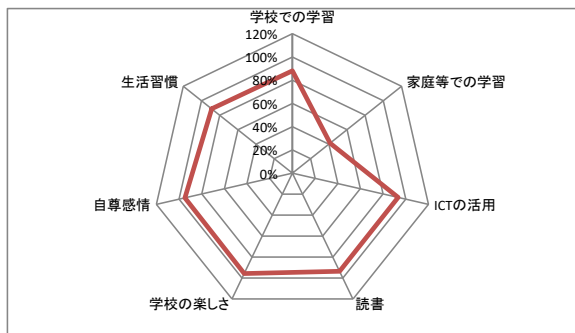
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・無回答率が全国平均より多い。 ・登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像しながら読むことに課題がある。 ・条件を満たしながら文章を書くことに課題がある。 ・自分の立場を明確にしながら、自分の考えを書くことに課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・話し言葉と書き言葉との違いを理解しているかをみる問題 ・必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉える問題	
	努力が必要な問題	・文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところ見付ける問題 ・互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題 ・漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	

算数	全体的な傾向や特徴など	・無回答率が全国平均より多い。 ・中位層が多い。(あと一息で全国平均正答率に達する児童が多い)	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・整数の乗法や除法を計算すること ・長方形の意味や性質、構成の仕方について理解しているかをみる問題	
	努力が必要な問題	・数量が変わっても割合は変わらないことを理解しているかを見る問題 ・目的にあった数の処理の仕方を考察できるかどうかを見る問題 ・比例の関係をを用いて、未知の数量の求め方と答えや式を言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題 ・図形の意味や性質をもとに図形の構成の仕方を考察する問題(プログラミング)	

理科	全体的な傾向や特徴など	・上位層が少ない ・無回答率が全国平均より多い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつ問題 ・観察で得た結果を問題の視点で分析し、解釈し、自分の考えをもつ問題 ・提示された情報を分析して解釈し、自分の考えをもつ問題	
	努力が必要な問題	・実験で得た結果を問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述する問題 ・日光は直進することを理解しているかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
・友達と協力するのは楽しいと回答した児童が全国平均より多く、学校に楽しさを感じている。 ・授業では、自分の思いや考えをもとに、新しいものを創り出す活動を行った児童が全国平均より上回った。 ・家で自分で計画を立てて勉強をする習慣が全国平均より大きく下回った。 ・学校生活以外で1時間以上読書をする児童が全国平均に近づきつつある。しかし、読書を好きと回答した児童は全国平均を下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・書く問題に無回答が多いという実態から、朝学タイムで「論理的に書く」力を伸ばす取組を行う。(自分の考えを書く活動や新聞の読み取り活動の充実) ・目的や条件を明確に指示して、要約して書くこと、自分の考えを書くことを日々の学習に取り入れる。高学年なら60字(ノート三行)程度の制限をつけて行う。 ・放課後の「もくもくタイム」を少人数体制で行い、きめ細やかな指導ができるようにする。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習の大切さを通信やメールなどで啓発するとともに、子どもたちに計画的に学習に取り組むことの大切さをキャリア教育を通して指導する。 ・学級懇談会や通信などを通して、就寝時間、起床時間、スマホやパソコンの使用時間など、家庭や地域と連携して、生活習慣を見直すよう啓発する。 ・読書好きの子どもを育成するために、年間2回の「読書の日」及び「読書習慣」を設けたり、毎朝の読書タイムにブックトークを加えるなどの充実を図ったりする。
--